令和５年２月８日
九 州 地 方 整 備 局
大隅河川国道事務所

令和 5 年土石流調査情報（桜島地域） 第 2 報

（通算第 273 号）

○ 桜島の噴火による令和 4 年 12 月の降灰量は、桜島の火山活動が活発になった平成 21 年～令和 3 年における 12 月の降灰量の平均と比較して約 0.27 倍となっています。

○ 桜島における平成 21 年～令和 5 年の 1 月における土石流の発生回数の平均は 0.7 回ですが、令和 5 年の 1 月の土石流は発生していません。

1 桜島の噴火による降灰の状況

令和 4 年 12 月 1 日から令和 4 年 12 月 31 日までの約 1 ヶ月の桜島 18 カ所の降灰量観測所における最大の降灰量は、有村川（Ｎｏ．１８）で 0.75kg/㎡でした。また、降灰量の 18 観測所の 12 月の降灰量は、平成 21 年～令和 3 年における 12 月の降灰量の平均と比較し約 0.27 倍となっています。

資料－１ 桜島の降灰量図
資料－２ 降灰状況
資料－３ 平成 21 年～令和 3 年 12 月における降灰量の平均及び令和 4 年 12 月の降灰量比較

2 土石流の発生状況

令和5年1月1日～1月31日の間、桜島の11河川においての土石流は発生していません。

図－１ 桜島の直轄河川位置図（全11河川）
資料－４ 令和4年及び令和5年（1月）の土石流発生回数比較
資料－５ 各渓流における土石流発生状況（令和4年1月～令和5年1月）
資料－６ 年間（暦年）・河川別土石流発生回数

3 土石流災害の危険性

桜島における土石流の発生回数は、平成 28 年は 25 回、平成 29 年は 17 回と爆発・噴火回数が活発な時期に比べ若干少なくなっていましたが、平成 30 年は 45 回、令和元年は 34 回、令和 2 年は 32 回と多く、令和 3 年は 21 回、令和 4 年は 22 回と若干減少しました。

また、平成 28 年に 153 回まで減少した噴火・爆発回数は、平成 29 年には 406 回、平成 30 年は 479 回、令和元年は 393 回、令和 2 年は 432 回と多い状況です。令和 3 年は 145 回と減少していますが、令和 4 年は 235 回と増加しています。令和 5 年は 1 月末時点で 14 回となっており、少量の雨で土石流が発生する状況は継続しています。

鹿児島地方気象台及び鹿児島県より土砂災害警戒情報が発表されるような大雨が降るような状況の場合には、土石流やがけ崩れによる被害が発生する恐れがありますので今後も、土砂災害警戒区域に指定されている地域では十分警戒が必要です。

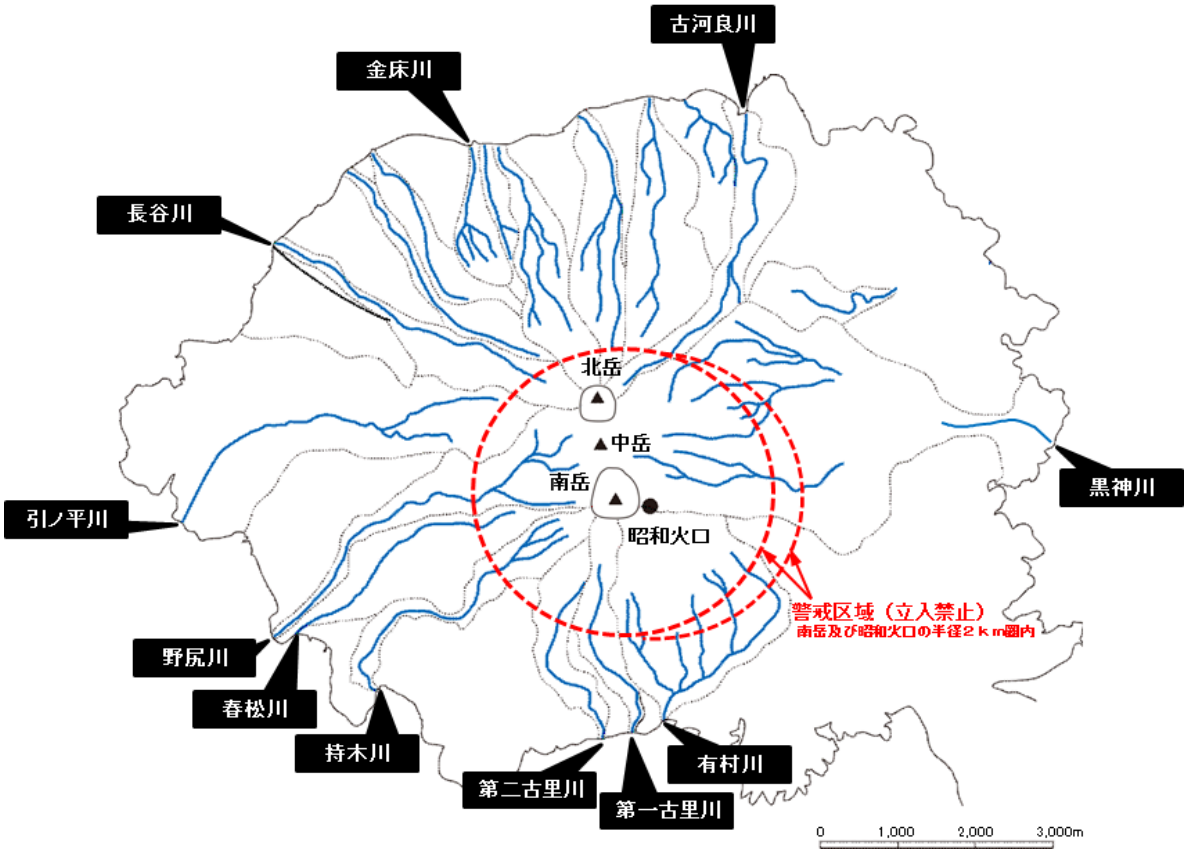
資料－７　年間（暦年）・土石流発生と噴火回数の関係

資料－８　土石流発生直前の降水量（平成 21 年 3 月 1 日～令和 5 年 1 月 31 日）

４　今後の対応

九州地方整備局大隅河川国道事務所では、今後も桜島の噴火に伴う土石流等の調査を継続的に行い、適宜、情報提供させていただきます。

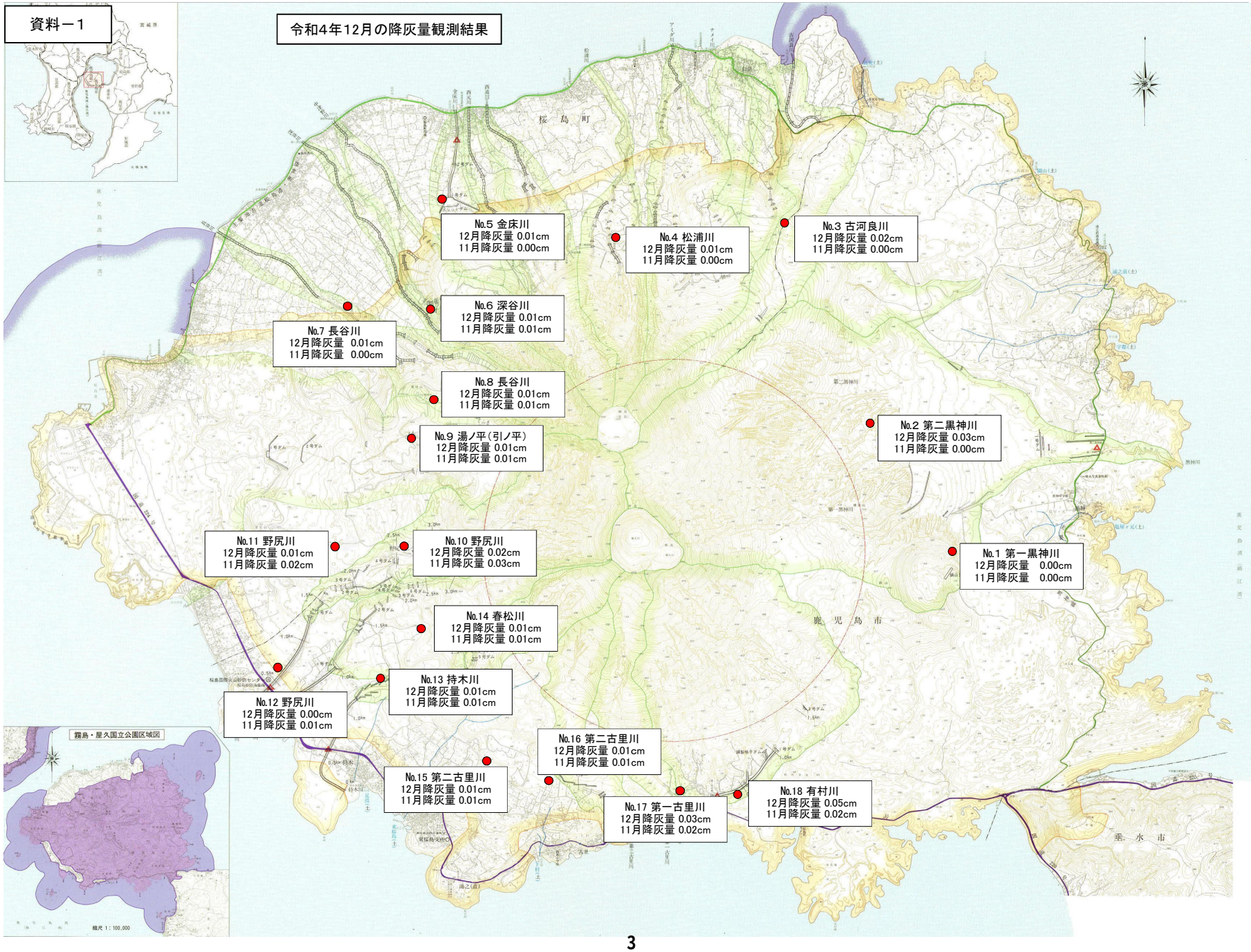
※この情報は、土砂災害警戒区域等における土砂災害防止対策の推進に関する法律第 31 条第 2 項に基づく情報の随時提供です。



図－１　桜島の直轄河川位置図（全 11 河川）

資料－1

令和4年12月の降灰量観測結果



資料－2

桜島の土石流と火山活動について

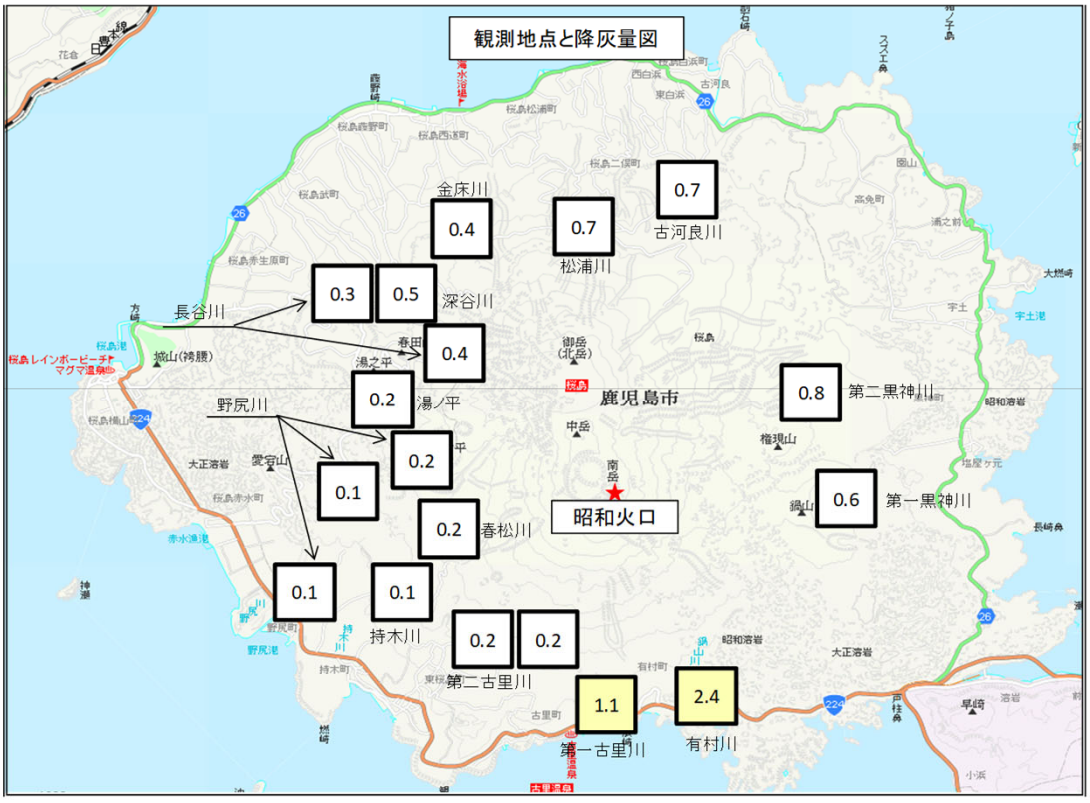
降灰状況

桜島の降灰観測結果（令和4年12月）

厚さ

- >30.0mm
- 15.0−30.0mm
- 10.0−15.0mm
- 5−10mm
- 1.0−5.0mm
- 0−1.0mm

桜島の降灰観測結果（平成21年～令和3年）12月平均

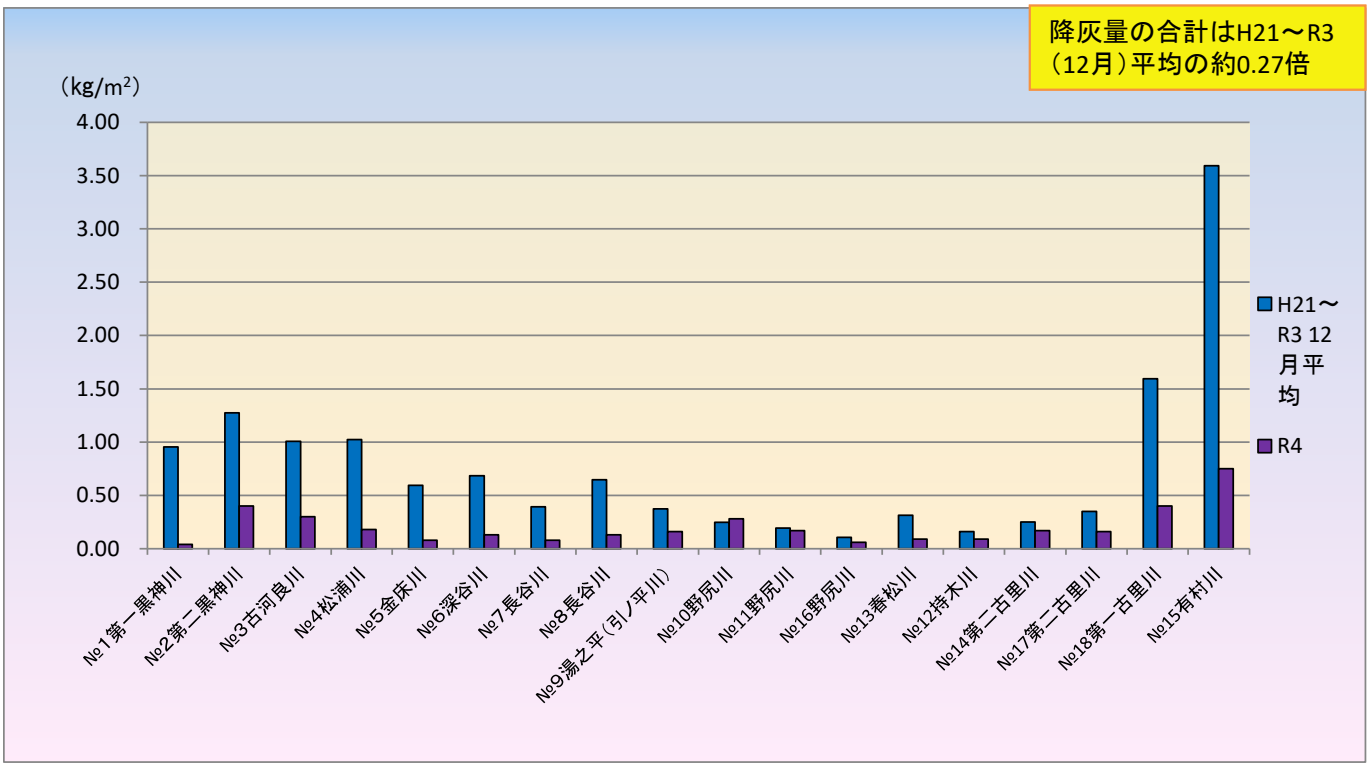


厚さ

- >30.0mm
- 15.0−30.0mm
- 10.0−15.0mm
- 5−10mm
- 1.0−5.0mm
- 0−1.0mm

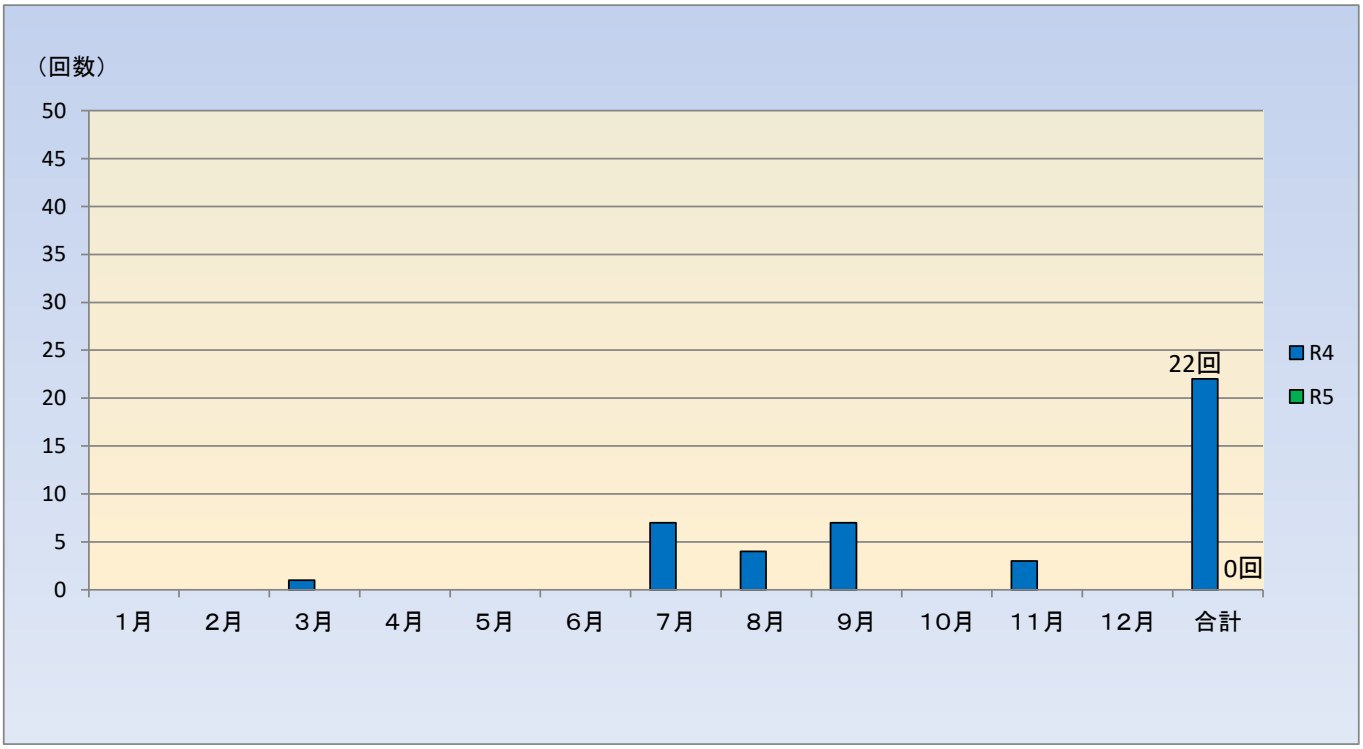
資料－３

平成21年～令和3年（12月）平均及び令和4年（12月）の降灰量比較



資料－４

令和4及び令和5年（1月）の土石流発生回数比較



		野尻川	春松川	持木川	第二古里川	第一古里川	有村川	黒神川	引ノ平川	金床川	古河良川	長谷川	合計
1月	R4年	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	R5年	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
2月	R4年	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	R5年												0
3月	R4年	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
	R5年												0
4月	R4年	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	R5年												0
5月	R4年	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	R5年												0
6月	R4年	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	R5年												0
7月	R4年	3	0	1	0	0	2	1	0	0	0	0	7
	R5年												0
8月	R4年	3	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	4
	R5年												0
9月	R4年	3	0	2	0	0	1	1	0	0	0	0	7
	R5年												0
10月	R4年	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	R5年												0
11月	R4年	1	0	1	0	0	0	1	0	0	0	0	3
	R5年												0
12月	R4年	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	R5年												0
合計	R4年	11	0	4	0	0	4	3	0	0	0	0	22
	R5年	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

資料－５

各渓流における土石流発生状況（令和4年1月1日～令和5年1月31日）

土石流発生状況

令和4年（2022年）

発生回数	発生月日	渓流名	発生時雨量(mm) 20分雨量	時間雨量	連続雨量	備考
1	3/26	野尻川	14	29	61	
2	7/5	野尻川	19	23	31	
3	7/9	野尻川	17	22	36	
4	7/9	有村川	18	27	49	
5	7/15	野尻川	21	26	26	
6	7/16	持木川	30	46	57	
7	7/16	有村川	21	38	48	
8	7/16	黒神川	20	55	90	
9	8/13	野尻川	0	0	0	
10	8/16	野尻川	10	11	19	
11	8/25	野尻川	12	20	23	
12	8/25	有村川	16	21	22	
13	9/5	野尻川	14	18	18	
14	9/5	持木川	14	24	24	
15	9/18	野尻川	5	11	20	
16	9/18	野尻川	12	23	62	
17	9/18	持木川	12	20	180	
18	9/18	有村川	21	48	239	
19	9/18	黒神川	23	51	239	
20	11/29	野尻川	9	14	36	
21	11/29	持木川	10	16	41	
22	11/29	黒神川	0	21	62	
平均			14.5	25.6	62.9	

いずれの土石流も砂防施設により安全に流下し、被害なし。

令和5年（2023年）

発生回数	発生月日	渓流名	発生時雨量(mm) 20分雨量	時間雨量	連続雨量	備考
1						
2		土石流は発生していません。				
3		（令和5年1月31日時点）				
4						
5						
6						
7						
8						
9						
10						
11						
12						
13						
14						
15						
16						
17						
18						
19						
20						
平均						

いずれの土石流も砂防施設により安全に流下し、被害なし。

- 土石流発生はワイヤーセンサーの切断で検知。ただし、渓流に複数のワイヤーセンサーを設置している場合は、最初に切断を検知した箇所のみ記載。
- 連続雨量については3時間以上の無降雨期間があると値が0にリセットされる。
- 発生時間雨量については発生時刻からさかのぼった時間雨量を表示
- 雨量０㎜で土石流が発生している事例については、雨量計、ワイヤーセンサー設置箇所より上流部のみで降雨があったことが要因と思われる。

資料－６

桜島の土石流と火山活動について

年間（暦年）・河川別土石流発生回数

	野尻川	春松川	持木川	第二古里川	第一古里川	有村川	黒神川	古河良川 ※2	金床川 ※2	長谷川 ※2	引ノ平川 ※2	合計
S51	24	6	6	5	5	6	6					58
S52	22	4	10	10	6	11	11					74
S53	21	2	11	4	4	4	8					54
S54	17	4	16	7	9	6	13					72
S55	23	4	10	5	8	5	9					64
S56	17	5	15	0	7	8	6					58
S57	17	1	9	1	9	16	2					55
S58	25	6	13	※7 **13**	※7 **13**	18	16					104
S59	15	6	9	7	4	9	8					58
S60	33	※7 **16**	※7 **24**	9	7	12	10					※7 **111**
S61	18	5	7	2	6	12	8					58
S62	20	4	9	4	6	11	14					68
S63	23	2	14	7	4	11	10					71
H1	29	※1	7	※1	7	11	13					67
H2	※7 **39**	※1	8	※1	9	17	21					94
H3	20	2	5	8	4	10	15					64
H4	24	2	8	6	6	13	14					73
H5	16	3	8	3	6	※7 **24**	※7 **22**					82
H6	11	3	5	1	2	13	7					42
H7	10	4	5	2	3	16	12					52
H8	10	1	3	0	2	5	5					26
H9	3	1	1	0	2	2	2					11
H10	10	2	2	1	1	7	8				※7 **4**	35
H11	7	0	4	1	0	8	10				1	31
H12	8	0	2	0	0	8	4		0		2	24
H13	8	2	2	0	0	3	2		0		0	17
H14	9	0	0	0	0	2	6		0		0	17
H15	6	0	1	0	0	0	2		0		0	9
H16	10	0	1	0	0	2	2		0		0	15
H17	6	0	2	0	0	2	2		0		0	12
H18	6	0	2	0	0	3	2	0	0		0	13
H19	7	0	1	0	0	2	2	0	0		0	12
H20	2	0	2	0	0	2	7	0	0	0	0	13
H21	4	0	1	0	0	2	5	0	0	0	0	12
H22	18	0	7	0	0	6	12	0	0	0	0	43
H23	10	1	7	2	2	6	3	0	0	0	0	31
H24	21	1	11	3	3	9	7	0	0	0	0	55
H25	12	0	8	2	3	5	4	0	0	0	0	34
H26	17	0	4	2	1	16	1	0	0	0	0	41
H27	13	0	7	1	1	15	8	0	0	0	0	45
H28	11	0	3	1	1	6	3	0	0	0	0	25
H29	7	0	0	0	0	8	2	0	0	0	0	17
H30	21	0	1	0	1	17	5	0	0	0	0	45
R1	19	0	1	0	0	10	4	0	0	0	0	34
R2	12	0	3	0	1	9	7	0	0	0	0	32
R3	6	0	3	1	2	6	3	0	0	0	0	21
R4	11	0	4	0	0	4	3	0	0	0	0	22
合計 ※3	698	87	282	108	145	398	346	0	0	0	7	2,071
渓流ごとの割合（%）	33.7	4.2	13.6	5.2	7.0	19.2	16.7	0.0	0.0	0.0	0.3	100
平均 ※4	14.9	1.9	6.0	2.4	3.1	8.5	7.4	0.0	0.0	0.0	0.3	44.4
過去10年間の平均 ※5	12.9	0.0	3.4	0.7	1.0	9.6	4.0	0.0	0.0	0.0	0.0	34.9
過去5年間の平均 ※6	13.8	0.0	2.4	0.2	0.8	9.2	4.4	0.0	0.0	0.0	0.0	30.8
過去最大	39	16	24	13	13	24	22	0	0	0	4	111

※1） 観測休止　※2） 引ノ平川はH10、金床川はH12、古河良川はH18、長谷川はH20より観測開始　※3） 合計は、S51～R4
※4） 平均はS51～R4（引ノ平川はH10～R4、金床川はH12～R4、古河良川はH18～R4、長谷川はH20～R43）※5）過去10年間はH25～R4
※6） 過去5年間はH30～R4　※7） 過去最大は太字

R5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	698	87	282	108	145	398	346	0	0	0	7	2,071

平成21年～令和4年　月毎の発生回数

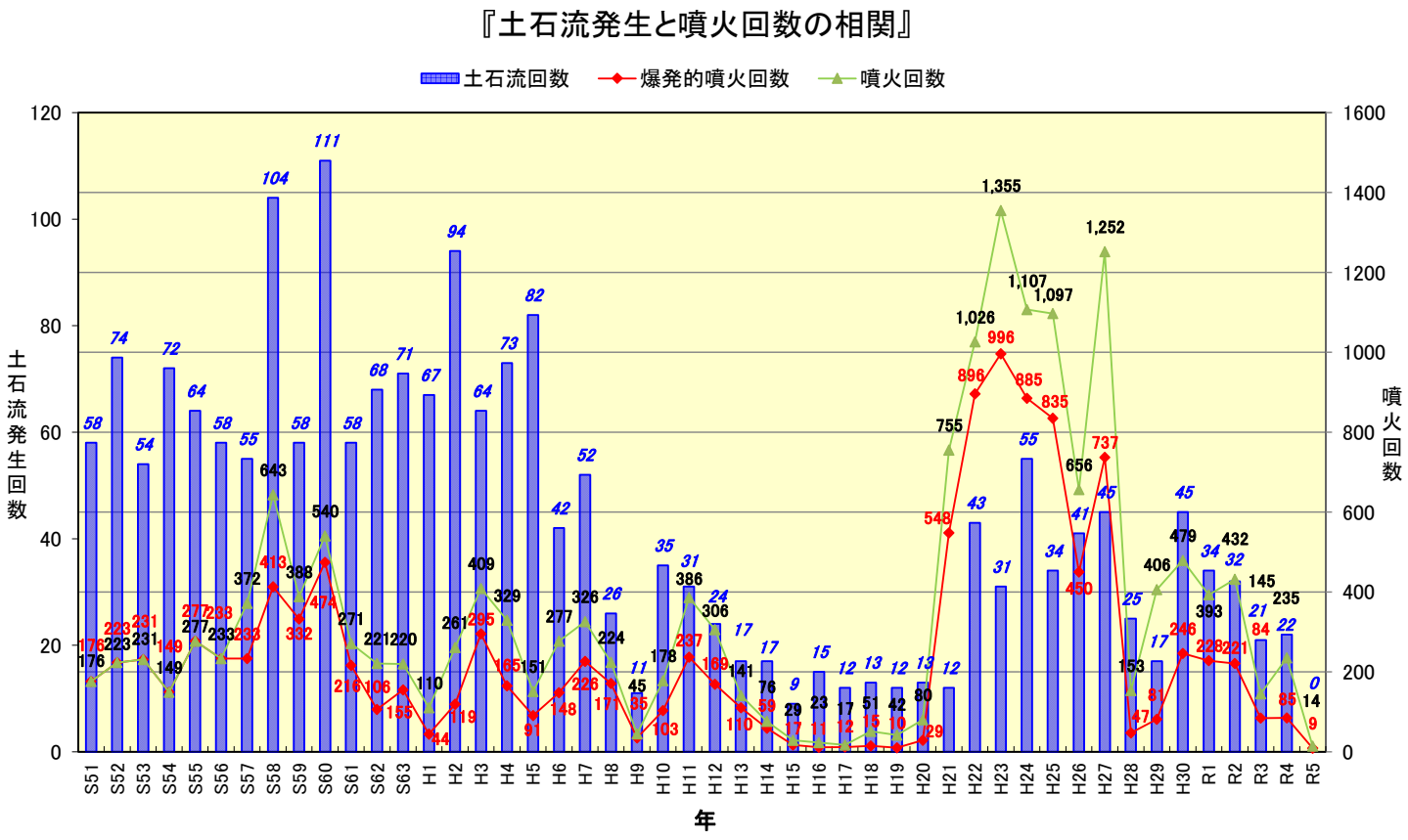
	野尻川	春松川	持木川	第二古里川	第一古里川	有村川	黒神川	古河良川	金床川	長谷川	引ノ平川	平成21年～令和4年平均発生回数
1月	4	0	1	0	0	3	0	0	0	0	0	0.7
2月	6	0	2	0	1	5	4	0	0	0	0	1.6
3月	13	0	3	0	0	10	4	0	0	0	0	2.7
4月	10	0	1	0	0	9	5	0	0	0	0	2.3
5月	16	0	4	1	2	15	2	0	0	0	0	3.6
6月	37	0	14	3	3	26	17	0	0	0	0	9.1
7月	26	0	7	1	0	16	17	0	0	0	0	6.1
8月	23	1	10	2	3	12	4	0	0	0	0	5.0
9月	24	0	4	0	2	12	7	0	0	0	0	4.5
10月	10	1	6	3	2	4	3	0	0	0	0	2.6
11月	10	0	7	2	2	3	3	0	0	0	0	2.5
12月	3	0	1	0	0	4	1	0	0	0	0	0.8

資料－7

桜島の土石流と火山活動について

桜島における土石流の発生回数は、平成28年は25回、平成29年は17回と爆発・噴火回数が活発な時期に比べ若干少なくなっているが、平成30年は45回、令和元年は34回、令和2年は32回と多く、令和3年は21回、令和4年は22回と若干減少しました。
平成28年に153回まで減少した噴火・爆発回数は、平成29年には406回、平成30年は479回、令和元年は393回、令和2年は432回と多い状況です。令和3年は145回と減少しましたが、令和4年は235回と増加しています。令和5年1月末時点で14回となっており、少量の雨で土石流が発生する状況は継続しています。

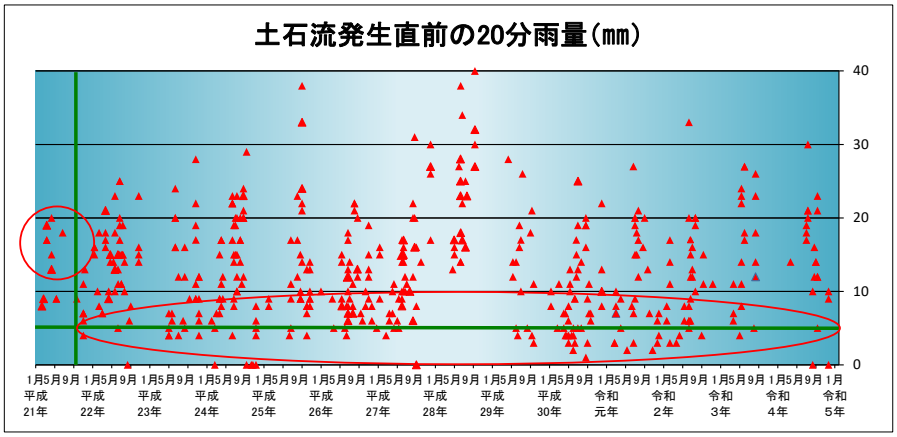
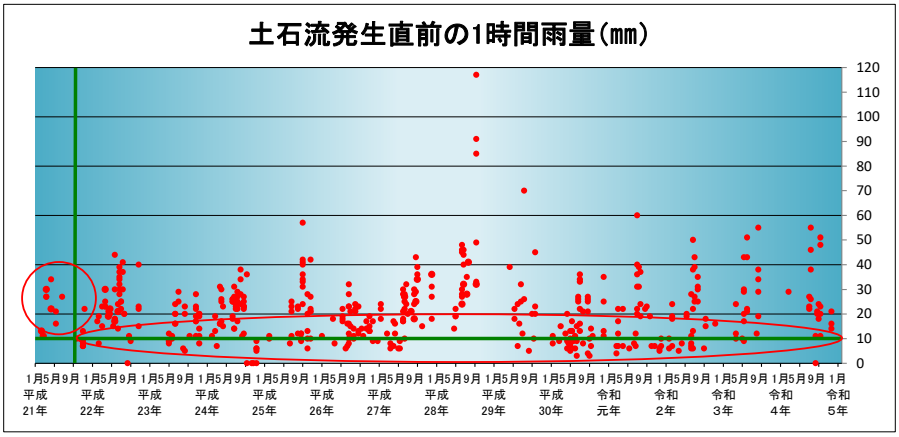
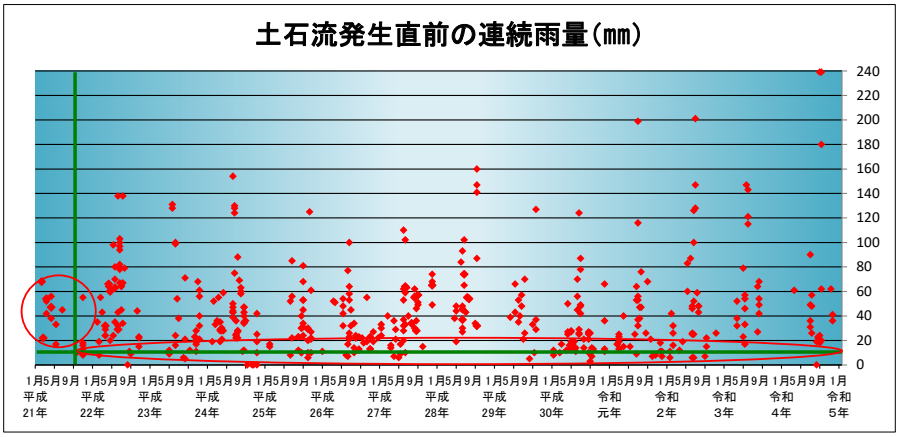
土石流発生と噴火回数の関係



※爆発・噴火回数は、気象庁発表値
※R5は1月末時点

資料－８

桜島の土石流と火山活動について

降灰量の影響により、雨量が少ない場合でも土石流が発生する傾向は継続している。

土石流発生直前の降水量（平成21年3月1日～令和5年1月31日）